

2013年度 前期	リフレクションペーパー
-----------	-------------

学科名	電気通信工学科					
科目名	リメディアル数学演習					
科目区分	専門科目	単位数	2	開講時期	1年次前期	
必修・選択の別	必修科目(組込みシステムコース)/必修科目(電気エネルギーコース)/必修科目(情報システムコース)					
担当者	喜屋武 毅 / 中野 吉正					
授業の到達目標 (シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> ・整式の変形ができる。(A1) ・分数式の計算ができる。(A1) ・簡単な方程式、不等式が解ける。(A1) ・簡単な関数のグラフが描ける。(A1) ・三角比がわかる。(A1) 					
日程と内容	04/12 導入講義 04/19 因数分解+整式の除法 04/26 剰余の定理と因数定理 05/03 分数式の計算・実数 05/10 いろいろな数(実数, 平方根, 複素数) 05/17 2次方程式, 解と係数の関係, いろいろな方程式 05/24 不等式の性質・解法と不等式の証明 05/31 二次関数と二次不等式 06/07 いろいろな関数 06/14 臨時試験(中間試験) 06/21 指数関数 06/28 対数関数 07/05 加法定理とその応用 07/12 直線の方程式 07/19 二次曲線 07/26 定期試験					
成績評価基準	定期試験	70%	実技	0%		
	臨時試験	30%	部外評価	0%		
	報告書・レポート	0%	プレゼンテーション	0%		
	課題	0%				
	演習	0%	計	100%		
授業到達目標の達成度	講義内容については、達成目標のいずれの項目も概ね達成している。					
反省点	演習科目であるため、2クラスに分けて授業が実施されている。クラス分けすることから、習熟度の違いが若干解消され、学生への細かい配慮ができるが、数学な不得手な学生へのフォローにまだ改善の余地があると考えられる。また、演習科目である趣旨から、リメディアル数学に比較して、定期試験のレベルを高く設定したことが合格率に影響している。でもクリアしてほしいレベルである。					
来年度の計画	授業内容に関しては現状の削減予定はないが、講義内容を精査して授業への興味や理解度が深まるようにする。習熟度の違いを埋めるため、学生の自己学習を促す課題等を準備するように努力する。					
授業評価アンケートに対するコメント	アンケートの結果によると、総合評価は8.1で、辛うじて平均点を超えている状況。また、学生の予習または復習についての設問のポイントが低いことから、ホームワークを課すなどして理解度を深めるに工夫が必要である。シラバス通りでないとの指摘があるが、学生の理解度を図りながらペースを変えており、内容は網羅しているので特に問題視していない。					
履修登録者数	69名	定期試験 受験者数	67名	合格者数	54名	合格率 81%